

---

# 混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

天儀凌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

### 【Zコード】

Z8314Z

### 【作者名】

天儀凌

### 【あらすじ】

俺は混沌の後継者なんだとき、まあ気楽にって・・・  
いきなり転生つておい！？

まあ良いか混沌の後継者始めるぞ

主人公設定12月29日更新

アンケート1月1週目まで

挿絵募集中です

## アンケートの説明

はじめまして、家電球形です！

第0話を見て頂ければいいのですが、

アンケートを行います！

この小説では主人公はサーヴァントで召喚されることは確定しています

つまり、聞きたい事は、

主人公のマスターは誰が良いか？

1・衛宮切嗣

2・言峰綺礼

3・間桐雁夜

4・その他（名前をお書きください）

で募集します！

一番多かったのを採用させていただきます！

一番田は出来ればエフルーートをやってみたいとおもこますー。

個人的には吉峰さんとやらせてみたいですねー

期限は28、29日を予定していますー。

よろしくお願ひしますー。

## アンケートの説明（後書き）

主人公「あのさあ、俺の設定は？」

家電「今日か明日くらいに投稿かな？」

主人公「名前出るよな？」

家電「知らない！」

家電は逃走した！

主人公「つておい待て！」

主人公は追いかけた！

家電「これからもお願ひします！」

主人公「逃げんな――――――！」

## 第0話混沌の始まり（前書き）

はじめまして、家電球形です！

こんな短い駄文ですがよろしくお願ひします！

では、混沌の後継者始まります！

## 第0話混沌の始まり

### 第0話 混沌の始まり

「あれ、ゼニなんだー？」

ふと、田が覚めるとそこは真っ白？いや、真っ黒？まあ、混沌的な空間があつた。

「ん、ちょっと待て、ソレはビリ？ていうか俺はソソの間イコはワたしが答えヨウ！」

「ヒダれだあンた？ヒテク調ガ！？」

どういう事だ？相手もさうだが俺の口調が崩れてる！？それにはんだこの感覚？

「よつやく、混沌たる私の後釜が見つかったのはいいが、

動搖している所をみても口調からみても心をみてもやはりまだ完全ではないか」

「ん、どうこの「」だ？あと、質問」「タヒロ」

何か誰かさんの口調がきれいになつてゐる……

俺はそれいら崩れてるだ？後心をみる？

ん、姿がよつやくはつきつ見えるぞ？だけど向だあの黒と白の刻まれた文様？

「む・やつこう事か？私の名はカオス、文字通り混沌の神だよ、  
そして君は私の後継者に選ばれたといつ事だ、  
そして君は混沌を制御していく最中、もう少ししたら慣れるだらつ

は、俺がよつは混沌さんの後継者だと？向で俺が？へそ、思考が  
全然定まらない……

「まあ、その状態では仕方ないかな？君は自分の名前すらはつきつ  
してはいまい、

だからまずは状況説明といひ

「ふつ、納得できないが事実だし頼むとしますかね・・・

「ふつ、それほどまでに嫌なのか? ここが死後の世界だからか? 私が混沌だからか?

自分の状況がその状態だからか? まあ良い、では説明するとしよう

「まず、この世界だが神界と呼ばれている。まあ上から下まで階層は様々だがね、

そして私は上位十二神の一人だよ

驚きだな、こりゃ・・・

「・・・・・・・・

「そろそろ隠居したくてね、私の資質を受け持つにふさわしい

人物を探していたんだがそこに君が現れてくれたから助かったよ、

おかげで数百年以上待った甲斐があるものだ

事情と場所はわかつたな、聞きたい事は一つ、それは・・・

「成程な、で、俺はどう死んだんだ？」

「ふむ、慣れてきたようだな、その事に關しては他の神が運悪く交通事故で

殺してしまったと聞いているが？」

「ひつ・・・笑いながら話してやがるよ、自分が誰かに命令したなおい・・・

「はあ、成程なあ・・・で、俺にどうじるといへ・・・

「それなのだがね、まずは他の世界へ転生してもうかと思つて  
いるのだよ」

転生ねえ、そんなの前世では全く気にしていなかつたがなあ・・・

ビリしたもんかな?

するとカオスは笑つて、

「安心したまえ、これは強制だからな」

つて、ビす黒い穴の中に引きずり込まれてる…・ビリこいつ事だ!・?

「君はある世界へ行つてもいい、なあに向でもあつのよつな世界だから問題は無いぞ?」

「ちょ、何も無じで行くのが!-?」

流石にそれは困るだ!-?

「なあに、知識と経験と切り札はインプットしておへから問題は無い、

それと切り札は自分で決める、では行ってくるといふ

「なー? ちょっと待つた

俺は穴に全て引きずりこまれた……

「さて、私の後継者 よ、はたしてどうのよいうな混沌へ進むのかな?」

## 第0話混沌の始まり（後書き）

すいませんがアンケートを取ります！

誰がマスターがいいか？

1・衛宮切嗣

2・言峰綺礼

3・間桐雁夜

4・その他（名前は書いてください）

の中でお願いします！

主人公は原作を知りませんのであしからず

まあアイリスファイールとかでもOKですよ！

ご意見ご感想どしどしつべ！

アンケートは28、29日傍晚ごまで取りますよ！

## 主人公設定（ネタバレ有り）（前書き）

いつも家電球形です！

毎度おなじみの主人公設定です！

では、どうぞ！

少々ネタバレがあるかも？です

## 主人公設定（ネタバレ有り）

### 主人公設定

名前 ケイオス＝ニ＝カイザー（ニはツヴァイ）

容姿 長めの黒髪（女性からすればセミロング並か少し長いくらい）  
に、

金色で柔らかそうで虛ろな目、混沌の神カオスによつて  
白い肌に黒い刺繡のような文様の服や同様の肌をしている  
服装は青いローブ姿で、下は黒い全身鎧を纏つている  
靴は普通の黒いブーツに近い靴には白い文様が入つていて

イケメンなはずである、本人曰く刺繡を消せば執事に似合い  
そう

召喚時、白と黒が混じつた翼を出しているが、神靈適正がある場合は白、

魔族適正がある場合は黒の割合が多くなるようになつていて、  
隠すのも可能

性格 混沌という起源もしくは目的意識がある為、1つ重要視する  
事は無い

その場合「それは愚鈍だよ」と言つ、

第四次聖杯戦争では桜の為に聖杯の破壊に動く

マスター 間桐桜（12月28日確定）

クラス ルーラー（主に支配者という意味です）

( 12月28日現在で確定 )

属性 混沌・中庸

( ) 内は魔族適正を得ている時

筋力 C ( B )

耐久 B ( B )

敏捷 C ( A )

魔力 A + ( B )

幸運 D ( E )

宝具 E X

宝具

唯一つの混沌世界 ( フォー・カオス・ロードワールド )

ランク : E X ( E ~ E X )

種別 : 概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさで魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。  
保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念が有る。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

## クラス別スキル

陣地作成 : A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。

”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

## 保有スキル

混沌自立（単独行動 : A + ）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。  
これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性 : A + ( F ) 、魔性 : A + ( F )

このランクになると神と同義であるが、  
光と影すら伴う混沌なので影になる事で

神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。

その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持 : A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。

宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。  
マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。  
マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、  
神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。  
自身のステータスは下がる。

まづ「J」の設定で行かせてもうこまづ

え、チート？これはまだそつではないでじょ？

それではアンケート終了後更新しました！

主人公設定（ネタバレ有り）（後書き）

2010年12月26日の会話

ケイオス「結局出したなおい」

家電「まあね」

ケ「容姿とかは？」

家「いじるの変わるからねえ・・・」

ケ「ちよつと話をしようか・・・」(△△△)

家「待つてー影出しあやてるからああああああーーー」(逃走)

ケ「待てえええ！ーーー」(影を出しながら追走)

これからもお願いしますーーー

## アンケート途中経過

どうも、家電球形です！

ただいまの集計経過は、

1・0人

2・0人

3・2人

4・間桐桜（幼少期）2人

イリヤスフィール・フォン・アインツベルン（幼少期）1人

遠坂凜（幼少期）1人

です！

というより、雁夜ブームなんだろうなと最初思っていたんですが、

待つて、4歳いぢやー？ 一体ビビリこいつ事なんぢ（ry

それに間桐家強し！？

さうひじて皆さん幼少期（重複有り）派と雁夜派に分かれた！？

他派閥がいないなあ・・・

じゃあ、4・幼少期組、5・その他とさせてもいいます！

27日で切つても変わらないかなあ・・・

でも集計終了は28日予定にさせてもらいます！

どじびじびうがー！

## アンケート途中経過（後書き）

ケイオス「おい、もうアクセス2000越え、ニーク600越え  
とはな・・・」

家電「皆さんありがとうございます。できればアンケートをビリヤ  
ー！」

ケ「俺からも感謝する」

家「では、27日か28日でーーー。」

ケ「おい、まだ終わってないぞ・・・って行ったのかよ

とりあえず『混沌の後継者』をよろしく頼む

家「何だ、いりこりのひ出來るじやん、フフフ

## ・ ルート関連っぽいストーリー？（前書き）

どうも…家電球形です…」のままだと出なさそうなのを投稿します！

気に入ったものは感想等どうぞ…

## ・ルート関連っぽいストーリー？

「君はアーサー・ペンドラゴンだな？」

僕は誓っていた・・・正義の味方・・・天秤の守り手になると・・・

「いや、俺は混沌、ケイオス、ケイオス＝ニ＝カイザーだ」

しかし」の黒髪で、金色の目で、白い肌に黒い文様を巻き付けた男  
が、

「召喚に応じ参上した、間に答える、お前が混沌たる俺のマスター  
なのか？」

僕の存在価値が、僕の理想が、簡単に・・・

「理想はあくまで理想だ、出来るものと出来んものがあるに決まつ  
ているだろう？」

「いや、それでも僕は少數を切り捨ててきたんだ！」

「いい加減気づけ、その果てにあるのが混沌でも何でもない孤独のみだといつこじとを、

それは悪ではない、ただの愚鈍なんだよ、衛宮切嗣」

壊れて崩されていった・・・

「救え、今でも遅くないだらう、その為に召喚されたのだぞ?」

「ああ、やつてやるとも、言峰綺礼最後の勝負だ!」

そして僕はこの戦いに・・・

「良いのか君は?」の報酬は君に有るべきだろ?」

「良いのか何年後になるかは知らんが・・・

幸せへの戦いに赴けよ・・・

「つー?」

あいつは、今どこで何をしているのかな？

ifルート衛宮切嗣解体編

## ・fルート関連っぽいストーリー？（後書き）

はい、今回は衛宮切嗣編をやってみました！  
ご感想、ご意見あればどうぞ！

アンケートもお願いします！！

ケイオス「そういうえばPVが5000越え、ユニークが1200なんだと

な？」

家電「それが困るんだよね・・・記念とか記念とかきこ」

ケ「壊れたな・・・まあ良いか、『混沌の後継者』よろしく頼むぞ！  
俺の混沌の為に！！」

家電「つて、お前は嬉しそうだな嬉しそ」

アンケート集計経過

間桐桜（幼少期）4人

間桐雁夜 2人

イリヤスフィール・フォン・アインツベルン（幼少期）1人

遠坂凜（幼少期）1人

蒼崎橙子 w 1人

です！桜人気です！このままだと桜ルート（多分間桐家救出か聖杯戦争崩壊ルート）です。ルートは間桐雁夜とあと一人で予定しています！

かなりきついです！

（＼（。ロ＼）／＼ハドコ？（／＼。）ノアタシハダアレ？状態）

まだまだ時間はありますのでどしどしうま一

## ifルート関連っぽいストーリー？（前書き）

どうも、家電球形改め天儀凌です！  
ifルート言峰綺礼編行つてみます！

・ ルート関連っぽいストーリー？

私はいつからこの問いをしてくるのだろうか？

・ サーヴァント、アサシンを召喚してくる時もこんな事を考えている。

この聖杯戦争で、衛宮切嗣との戦いでこの答えを見つけ出す、絶対に・・・

見つか」「おい、お前が混沌たる俺のマスターか？」

何！？確かに私は百の貌のハサンを呼び出したのではないのか！？

「知らん、だがなあ、お前の眼、俺にはわからん事も無いぞ？

「…？」

「お前には情熱が無い？神の加護が無い？違うんだよ、吉峰綺礼、俺のマスターよ

「では、私は何を求めているのだー？」

「ー？ 待て、落ち着け、」 ひづ等は セ を想い出して・・・  
！？

「な、なんだー？」

「じつや、自分の本質から背を向けているだけが、臆病だな

「貴様に何がわかる、アサシンー！」

「わかるとも、だがこれは一つの試練だ

「何？」

「お前は既に見えてーるのだよ、答えを、聖杯への道を」

「では、聖杯が私を導くと？」

「さうだ、お前ではない、聖杯がだ」

「だがそれは・・・遠坂師と戦つ事になる」

「いいではないかね？裏切りもまた必至といつ事だよ

「・・・・・・・・・・・・」

私は聖杯戦争にどう挑めば良いのか、

衛宮切嗣とどう戦えば良いのか

私の望みとは何なのか

この男は握っているのか・・・

「いいだろう、その道が私の答えになるのだな？」

「ああ、そうだ、来い言峰綺礼これがお前の道だ」

## ifルート関連つぽいストーリー？（後書き）

ケイオス「今日は戦争つぽい描寫すらないな」

天儀凌「良いじやんか、別に！！」

ケ「ふーん、まあ『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天儀凌「それではさよなら！」

### アンケート集計経過

現在1位 間桐桜 四人

2位 間桐雁夜 三人

3位 幼少期2人（要はイリヤと凜）

蒼崎それぞれW

葛木宗一郎（早い！？） 一人

です！まだまだアンケート募集しますよ！

またアンケート集計経過です、後・・・アンケート追加と一旦打ち切り

天儀凌「どうもー。」

ケイオス「投稿時間的にはこんばんわだな、で、今回は何故本文なんだ？」

天「皆さんに感謝の意とアンケートの経過をだな・・・」

ケ「俺はこれは結局シリアスではなくギャグ小説の説明かと」

天「待つて！それは無いぞ！一応シリアスで後書きがボケなんだよ  
これは！」

ケ「ならシリアス要素はどこにある？。」

天「今から出すんだよ今から・・・」

ケ「大丈夫か？本当に・・・」

天「大丈夫だ！多分・・・って、言いたい事はそれじゃなくて！」

ケ「で？」

天「お前何なの？いや、始めてマジックの集計結果だ！」

活動報告の方にも有りますよ」

ケ「ふむふむ、で現在は・・・

間桐桜 4票

間桐雁夜 4票

イリヤ 1票

遠坂凜 1票

蒼崎青子 1票

蒼崎橙子 1票

葛木（ステイナイト派？） 1票

「そういう事だな」

天「そういう事、で今回は他の作品もやつて欲しいか

1本で出来るだけ頑張つて欲しいかの

意 見 調 査だ――――――！」

ケ「無駄にテンションが高いな・・・」

天「そりや、アクセス連日4000越え、ユニーク連日1000越えなら嬉しかるうよ！」

ケ「要是俺もしくは別主人公の他作品を作つてほしいか、作るなかの「択だろ？」

天「素つ氣無いな・・・そういう事だ、

といつ事でアンケートづくりですいませんがアンケートをまた取ります、

他作品をやらない・・・更新が遅く、（1・2回は余裕で）文章が短い

他作品をやらない・・・意見が通りにくい

デメリット込みでお願いします！

「これは1月1週目が期限予定です！」

ケ「といつ事で『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「また次回、『意見』感想、アンケートお待ちしてます！

マスターアンケートは28日終了予定です！（終了時刻は未定）

また、アンケートはこれで一旦打ち切りになるのでご安心下さい

い

## アンケート終了、連載開始につき

はい、天儀凌です！

2010年12月28日午前10時を持ってマスターのアンケートを終了いたしました！

結果は

間桐桜、間桐雁夜 各4票

イリヤ、遠坂凜、蒼崎姉妹それぞれ、葛木（ステイナイト派？） 各1票

でした！

ですので、雁夜救済ルートか、桜救済ルートか、

聖杯戦争崩壊（これは間桐家にとつてノーマルに近い）ルート

か悩んだのですが、雁夜救済ルートは他の人もしているし、

聖杯戦争崩壊ルートも何だかんだで多い・・・

という事でこの『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』は、

桜救済ルートです！

なので執筆を始めたいと思います！

余談ですが100000アクセス達成につきiチルートも書きます！

この桜救済ルートの事項ですが・・・（見たく無い人はここで終了です）

- ・イレギュラーサーヴァントの理由は有ります
- ・桜に召喚されます（当然）
- ・ルートの通り桜が助け、助けられます
- ・原作ブレイク超有ります

- ・虫爺を直す考えは今の所は無い（雁夜は有りますよ）
- ・この第四次聖杯戦争は8組のサーヴァントとマスターで争われる
- ・イレギュラーサーヴァントである

・口調、性格ははつきりしません、ただマスターが望む混沌を、です

自分の意志はありますが、また違います

・他のマスター やサーヴァントと交友を持つたり、敵対するのは当然です

ifルートでも書きましたが、関わりを持っていきます

なので桜救済ルートの中に衛宮切嗣解体ルートも混じつたりします

今の所そんな所です！

主人公設定も更新する予定です！

今後も『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をお願いします！

## アンケート終了、連載開始につき（後書き）

ケイオス「ふーん、そうなったのか」

天儀凌「そうだな」

ケ「もうアクセス10000越えとはな・・・」

天「ヒヤホー！…という事でついに・i・ルートもしつかり始めますよー！」

ケ「という事だ『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む

天「ではでは！」

## 第1話混沌の召喚（前書き）

いつも、天儀凌です！  
ついに第1話投稿です！  
お楽しみ下さい・・・

## 第1話混沌の召喚

私はムシグラニアにつまでいるんだ奴<sup>アリフ</sup>。

ムシの中につまでいるんだ奴<sup>アリフ</sup>?

一体私はどうなってるんだ奴<sup>アリフ</sup>?

助けてほしい・・・でも助ける人はいない・・・

雁夜おじさん<sup>アシタノ</sup>か遠くへ行つちや<sup>アヒヤ</sup>と<sup>アヒヤ</sup>言つてしまつた・・・

私はこんどはどんな授業を受けるの?

田をもつ開じよつ・・・暗闇の中に身を置いて・・・あれ?

あれは丸い魔法陣? 何で輝いてるの?

誰か出でくる・・・あなたはいつたい誰?

「俺はイレギュラーサーヴァント、ルーラー、召喚に応じ参上した、

問に答える、お前が混沌たる俺を呼び出したのか?」

ルーラーっていう人は青年だった、顔や服に黒い文様を付けて・・・

「わからない・・・でも助けてって・・・思った」

「ならばお前がマスターだ右手を見ろ」

「??.?.?.?.」

右手に三つの紋様?がある・・・

「それは令呪、3つの聖痕、命令権だ、要は俺を援護、規制したり出来るものだ」

「そして俺をしつかり見ろ」

「何・・・」れ?C?B?」

クラス ルーラー

真名 ???

マスター 間桐桜

性別 男

筋力 C

耐久 B

敏捷 C

魔力 A+

幸運 D

宝具 ??

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。  
”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A+）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。

これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A + (F) 、魔性：A + (F)

このランクになると神と同義であるが、光と影すら伴う混沌なので影になる事で

神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。その代り反対の魔族適性を得る。

？？？

「それはステータス透視能力だ。サーヴァントを見ただけで俺はもちろん、

他の奴らのステータスも少し見えるぞ」

「でも、何で私が」

「知らん、聖杯の遊戯なのかもしけないが？」

「？？？それでも私をマスターにするなんてどういう事だろ？？」

「・・・・・・・・・・・・」

「ところでマスター「桜つて呼んで」……では桜、君は何を願うのかね？」

もつ私はムシに犯されているし……でも……

「私は……会いたい、姉さんや母さんや雁夜おじさん……」

「

「ふむ、ではまず「少し待つてくれんかのうへ」むへ」

お爺様……たぶんルーラーって「」の人が出でてきたから来たんだ……

「何がね？」

ルーラーは何か厳しい表情になつた……

「儂は間桐臘硯、間桐家の家老のよつな者じやよ、力力力」

「ふむ、ならば死んでくれ」

「何？アアアアアアアガガガ！？？」

「俺のマスターの為、狂いし元凶の虫はとく消えろ」

「グガアアア・・・」

お爺様を燃やしきへした！？何なの？あの黒い炎？

「では、君の虫を変えよう」

出来るの？と思つたらルーラーは私に触れ、

「『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「うつ！？・・・・ってあれ？」

「君を浸食していた寄生虫を安全なものに変えておいた、これで魔術師：

としては問題無いな、数日すれば体も慣れる

術師

「どうこうつ事?」

「間桐臘硯は死に、君は自由の身になつたといつ事だ、次に間桐雁夜だ」

「う、うん」

要は私は治されて、怖かつたお爺様はもういらないんだよね?.

「やつこいつ事だ、やあ、おじさんの所へ行くぞ」

「心が読めるの?」

「少しだけだ、さて彼がいる部屋はどうかね?」

「では、すぐに・・『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「ああ、わかつてゐよ桜ちゃん」

「お願い、雁夜おじさん」

「ああ、私が全て滅した、後は君だけなんだよ、間桐雁夜」

「何！？間桐臓硯が死んだ！？」

「ううー…………本当に痛みが消えた…………」

「重ねるぞ、その分リスクーだが仕方あるまい、

『崩壊』を『再生』に変更、我が混沌が命ぜる

「ううう…………ううう…………ううう…………」

「雁夜おじさん、つて…………」

雁夜が急に苦しみだして、私も倒れた？

「む、魔力切れか？まあ、ゆっくり休むといい」

そうしてルーラーの言つとおり私は眠りについた…………

## 第1話混沌の召喚（後書き）

天儀凌「といつ事で第1話です！」

ケイオス「臓硯は殺したな」

天「うん、どうしようか悩んだけど、どね・・・」

ケ「間桐桜がマスターか、まあ言つた通りだな」

天「雁夜派の人すいません、うちは桜へ雁夜だと思つんで」

ケ「といつ事で俺の魔術？が出てきたな」

天「はい、これがルーラーもといケイオスの宝具です！」

ケ「次回はさらに内容が濃くなりそうだな」

天「そうだね、ではよつなら、今度は第2話で会いましょう！」

『意見』』感想どしどしごつぞー！アンケートもお願いします！

ケイオスの絵を描きたい方もどしごつぞー！もしも通つた場合は

挿絵として載せます、挿絵無しの場合も有りますが

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

第1話混沌の召喚・裏（前書き）

どうも、天儀凌です！

第1話裏行かせてもらいます！

それではどうぞ！

## 第1話混沌の召喚・裏

ん、ここは混沌の中か！？

「つー…うぐああああー！？」

何だこれは！？

混沌の全概念を記録、及び肉体の更新

ケイオス＝ゼ＝カイザーの経験を記録

唯一つの混沌世界を獲得

「何だこれは・・・って混沌になつたのか俺は・・・」

変わっていく、俺が

であつた人格は消えていく・・・

「ふむ、俺の名はケイオス、ケイオス＝ゼ＝カイザーだな」

自分を確認した後、何か呼ばれる気がした・・・

私はムシグラにこつまでいるんだね!?

それは知らない、自分で決める

ムシの中にこつまでいるんだね!?

それも知らん、絶望の果てだと? そんなのはただの愚鈍だよ

一体私はどうなってるんだね!?

衰弱してまともでは無いか・・・

助けてほしい・・・でも助ける人はいない・・・

ほつ、諦めまだ願つと? 質は悪くても混沌だなあ・・・

雁夜おじさんせせらぎが遠くへ行つたりやつてしまつた・・・

おじさんとは・・・また混沌の気配がする・・・

私は「こんどはどんな授業を受けるの？」

授業？ そんなのは受けなくともいい、構わない

目をもう閉じよつ・・・暗闇の中に身を置いて・・・

まだ早い、その混沌、俺が見定めてやろう・

聖杯戦争、冬木、サーヴァントとマスター、万能の願望器、現代の  
知識・・・

俺は、呼ばれる声に応じ目を覚ました・・・

あなたはいつたい誰？

ん？ 驚きで声が出てないだと？ つまり故意では無い？

「俺はイレギュラーサーヴァント、ルーラー、召喚に応じ参上した、

間に答える、お前が混沌たる俺を呼び出したのか？」

まあ、質問としてはこれだら、聖杯戦争……

今回の世界は冬木といつ所だな……

「わからない……でも助けてって……思った

ふむ、混沌であるには間違いない、いずれ破滅が待っていた将来だ、

俺が変えても問題無いだろ？

「ならばお前がマスターだ右手を見る」

まずは聖杯戦争についておしえないとなあ……

「？？？・・・・・」

「それは令呪、3つの聖痕、命令権だ、要は俺を援護、規制したり出来るものだ」

まあ、令呪は教えないとい、この子が間桐桜である事は

俺の唯一つの混沌世界の劣化版の『分別』でわかつているしな、

間桐家は令呪を作ったお膝元だというしね……後は

「そして俺をしつかり見ろ

ステータス透視である、これはとても重要だ、特に俺にとつてはな  
「何……」れ? C? B?」

「それはステータス透視能力だ。サーヴァントを見ただけで俺はも  
ちろん、

他の奴らのステータスも少し見えるぞ」

ん、何か不安があるようにしているか?

「でも、何で私が」

「知らん、聖杯の遊戯なのかもしれないが？」

彼女のマスターになつた理由については軽くあしらつた、

おやじへ、俺はイレギュラー（…………）、

カオス（あの野郎）のせことば言えない……

「…………」

やはり、何か願う事があるか聞いてみるか？

「ところでマスター」「桜って呼んで」「…………では桜、君は何を願うのかね？」

ほつ、名も知らなかつた相手に如何とせ・・・救世主扱いかね？

良じじやないか、やつてやるわそれもまた混沌なのだから・・・

「私は・・・・・会いたい、姉さんや母さんや雁夜おじさん・・・

」

『知識』、『分別』、桜の言葉に動け、我が混沌が命ず・・・

ふむ、遠坂凜、遠坂葵、間桐雁夜か・・・

「ふむ、ではまず「少し待つてくれんかの」「・・・む・・

誰かな？あの魔性めいた老人は・・・

間桐藏硯、マキリ・ゾオルケン、始まりの一人、不老不死を願う、  
変質、第三魔法ヘブンズファイールから自身の不老不死へと堕落

間桐雁夜、遠坂桜改め間桐桜に対しての・・・

今の我が混沌にあのよつな蟲は必要無し・・・

『破滅』、『暴食』の概念を我が混沌の炎に『える』・・・

「何かね？」

柔らかい表情から真剣な表情へ変化する・・・

「儂は間桐臘硯、間桐家の家老のような者じゃよ、力力力」

俺が得た情報と一致、即座に我が混沌が命ず、

『破滅』、『暴食』の炎よ、あの蟲を概念諸共焼き灭べせー・

「ふむ、ならば死んでくれ

「何?アアアアアアガガガ!-??

「俺のマスターの為、狂いし元凶の虫はとく消える」

「グガアアア・・・」

間桐臘硯といつ名の蟲は焼かれた・・・

ふむ、初めてにしては上手くいったな・・・

この屋敷全体の蟲自体を殺したか・・・

「では、君の虫を殺さない?」

さて、桜君に埋め込まれてているであろう蟲を変えるとするかな・・・

出来るか？無論、我が混沌はほぼ全て（・・・・）の概念が有る

まあ、自分には触れなくても良いんだが、相手となると触れないとなあ・・・

「『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「ううー…………ってあれ？」

一定の（・・・）概念を他の（・・）概念に変えるのは難しいな・・

まあ、反対に似た（・・・・・）これで難しいのだ、

近くも遠くもない（・・・・・）概念を覚えるのは難しいか  
ね？

「君を漫食していた寄生虫を安全なものに変えておいた、これで魔  
術師

としては問題無いな、数日すれば体も慣れる」

あくまで魔術師だ、人としての心は自分で取戻してこそだと俺は思つ

「どうこう事っ」

「闇桐臘硯は死に、君は皿虫の身になつたという事だ、次に闇桐雁  
夜だ」

「へ、うん」

ん？君の思ひ通り、君は治つ、

間桐蔵硯は俺オリジナル（・・・・・）の獄炎で焼かれたという事だな、

「さうやら桜は頭は良いよつだ、魔術師としても大成するな」これは・・・

・  
虚数属性、水属性の多重属性とは・・・しかも魔術回路の多さ、

間違いない、これは育てれば立派な魔術師になる、

俺の特訓場所にでも連れ込むか？

「そういう事だ、さあ、おじさんの所へ行くぞ」

「心が読めるの？」

まあ、『知識』と『分別』を使っているからだが・・・

「少しだけだ、さて彼がいる部屋はどこかね？」

さて、もう一人治療してみるか・・・

- 「何！？間桐臘硯が死んだ！？」
- ・俺は間桐雁夜に間桐臘硯を焼き、間桐雁夜の治療を行う事を言った。

「ああ、私が全て滅した、後は君だけなんだよ、間桐雁夜」

「お願い、雁夜おじさん」

桜も一生懸命頭をさげている・・・

「ああ、わかつてゐよ桜ちゃん」

雁夜もいきなりの事で動搖している・・・

「では、すぐに・・・『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

蟲の活動の概念を変更させる・・・

「ううー？・・・本当に痛みが消えた・・・」

まだ、する事はある・・・

「重ねるが、その分リスクだが仕方あるまい、

『崩壊』を『再生』に変更、我が混沌が命ずる

身体も治さんとなあ・・・

「どうこう・・・ひ・・・ぐうー?」

「雁夜おじさん、つて・・・」

二人ともダウンか・・・

「む、魔力切れか?まあ、ゆっくり休むといい

雁夜は身体の急な回復、桜は急激な魔力消費で・・・

すべての俺にかかった概念は排除、我が混沌が命ずる、

また、雁夜の概念は完了次第排除する、つと・・・

これは唯一つの混沌世界はあまり使わない方が良いな・・・

魔力燃費がとてつもなく悪い（・・）のだ・・・

「バーサーカー・・・」

狂戦士に実体化してもらい、

「 a a a • • •」

「すまんが、手伝ってくれ、寝室ぐらいわかるだろ?」

「 a a a • • •」

狂戦士と共に、俺は寝室に向かつた・・・

## 第1話混沌の召喚・裏（後書き）

天儀凌「といつ事で第1話の裏です！」

ケイオス「ふーん、まあどうでもいいが・・・」

天「良くない！！まあ、特に何もないの」

「意見、感想どしどしどうぞ！――

他作品アンケートもどうぞ！――」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

## 第2話混沌の説明、暗躍開始（前書き）

どうも！天儀凌です！

日間ランキング85位、

PVアクセス200000到達、ユニーク5000到達！

本当に感謝です！

それでは第2話どうぞ！

ちなみに基本的に表は桜視点、裏はルーラー（ケイオス）視点です

## 第2話混沌の説明、暗躍開始

「では、どこから聞きたい? もしくはしてほしいのかな? 桜、そして間桐雁夜」

ルーラーはソファーに座り、私たちに聞いた・・・

「桜ちゃんから聞いていいよ、自分のサーヴァントだからね・・・

「えつと・・・真名を教えて?」

「ああ、自己紹介がまだだつたか、俺はケイオス、ケイオス＝ニ＝カイザーだ」

「うん、よろしく、まず・・・何で雁夜おじさんが昔に戻つてるの?」

「これは聞かないといけないと思った・・・これは自分の願い? だからだ・・・

「それは俺の宝具が起因している、ま、最後は相手の精神力頼りなんだが、「

「そんな物を俺に使ったのか！？いや、確かに・・・」

雁夜おじさんも驚いている・・・

それはそうだ、1年前に戻っているんだから・・・

「深く考える必要は無い、単に俺の宝具が

唯一つの混沌世界といつも概念宝具のみを

持つていただけだ・・・俺は自分の宝具の概念とお前達の概念を入れ替えた（・・・・・）

「に過ぎないのだからね、私の『知識』は君が生き残ると信じていたようだよ・・・・・」

「・・・・・・なら、バーサーカーがおとなしいのは・・・・？」

「マスターとの魔力パスで狂化が崩壊したのかもな」

「何故だ？お前、『崩壊』を『再生』に変更、と言つてなかつたか？」

「だからだ、概念が普通は消える事は無い、それに入れ替えた（・・・）だけだ、

バーサーカーに『崩壊』の概念が移つていた可能性はあるからな

「・・・・・」

ん？ルーラー、ううんケイオスのステータスが・・・

「聞いて良い？」

「ああ、すまない、つい怒っちゃってね・・・」

「何かな？」

「何か追加されてるの、そのステータスが？」

「見せてくれ、マスター」

「うん・・・」

クラス ルーラー

真名 ケイオス＝ゼ＝カイザー

マスター 間桐桜

性別 男

ステータス ( ) は魔族適正が有る場合

筋力 C (B)

耐久 B (B)

敏捷 C (A)

魔力 A+ (B)

幸運 D (E)

宝具

宝具 EX

唯一つの混沌世界（フォー・カオス・ロードワールド）

ランク：EX（E→EX）

種別：概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさで魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念がある。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

## クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。

”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

## 保有スキル

混沌自立（単独行動：A+）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。

これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A+（F）、魔性：A+（F）

このランクになると神と同義であるが、光と影すら伴う混沌なので影になる事で

神靈適性をほぼ全てなくす事が可能である。  
その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持：A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。  
宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。  
マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。  
マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、  
神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。  
自身のステータスは下がる。

「ふむ、全て出揃ったな・・・それで良いぞ、慣れてきたな桜」

「うん、ありがとうルーラー」

「桜を救ってくれたのは感謝する、俺じゃ確かに無理だった、

だが俺にバーサーカーがいるのに、どうしてお前は召喚されたんだ

？」

「さあな、桜にも言つたが聖杯の遊戯だと思つがね・・・」

それでも、おかしいとは思つのは何故だりつ~

「それでも8体は異常なんでしょう？あなたは何かわからないの？」

しばりくじてルーラーが考えて田を瞑つて言った、

「ふむ、聖杯が穢れている（・・・・・）のだとしたら？」

「えつ！？」「なつ！？」

嘘、そんな事つて・・・

「まずは聖杯戦争を俺の宝具で調べれば良いだらう、それでもって

俺が歓迎された理由もな

何故か笑うルーラーが怖い・・・お爺様がいるような気がする、でも・・・

「ルーラー・・・お願い

「『本』という概念を起動、そして聖杯の『知識』を示せ、我が混

沌が命ずる

何か黒い分厚い本が出てきて、ルーラーはめぐり始めた・・・そして、

「ふむ・・・む?」これは・・・」

「どうしたの?」

「成る程なあ、これなら俺が歓迎される訳だ・・・

「わかったぞ、マスター(・・・・)、聖杯は文字通り穢れでいる」

「どういう事だ?」

雁夜おじさんと同じ質問をしてみた・・・聖杯が穢れでいる?

「簡単に説明するが、時は六十年前第二次聖杯戦争、

アインツベルンは、最強の英靈を呼び出そうとする英靈を呼び出そうとした」

「誰だそいつは・・・？」

雁夜おじさんが聞く、一体最強の英靈つて？

「それは挾火教、ゾロアスター教のこの世全ての悪、アンリマゴ」

「つー？でもそれは・・・神の領域だろ？不可能なんじゃ」

「その通り、そんな事は不可能だ、

代わりに召喚されたのはクラスはアヴェンジャー（復讐者）、

アンリマゴとされ犠牲にされたただの村の少年だった

「・・・・・」

「無論、人間と同等に等しい奴では英靈には勝てない、

四日目でアインツベルンは敗退しアヴェンジャーは大聖杯に吸収さ

れた、

だがそれだけでは終わらない、人の悪意を持ったアヴェンジャーは  
ある願いを聖杯で叶えてしまった・・・ただ悪であれとね、

そして聖杯の器、小聖杯も途中で破壊されてしまった為、

大聖杯に悪の魔力は溜まり続け、無から破壊でしか叶えられない欠  
陥品になつた

「じゃあ、聖杯つて最大の呪いの品つて事か!?」

「無論、しかもまだ続いてね、令呪つてのはサーヴァントを自害さ  
せる

ものでね、聖杯の中身はサーヴァント7体分の魔力、

そしてアインツベルンの専用のホムンクルスだそうだ

「待て、それじゃあ・・・」

「ま、バーサーカーも俺もそつ考へて殺されても良さうな感じがするな、

バーサーカーも願いが叶えれば良いそうだし、俺は桜の為に行動するだけだ」

「じゃあ、ルーラー、私と一緒に居て・・・？」

「なつ・・・はあ・・・良いだろ？、やつてやるこの聖杯戦争、完膚無きまでに

壊し続けてやる！」

「うん！」

「俺も協力させてくれー！」

雁夜おじさん・・・

「良二の？」

「ああ、聖杯が壊れてるのなら俺も協力する、幸い身体は治ってるんだ」

「ふつ、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

## 第2話混沌の説明、暗躍開始（後書き）

天儀凌「第2話投稿です！」

ケイオス「ま、日間ランキングベスト100入り、  
総合アクセス20000突破、アクセス5000突破な  
らな」

天「ありがとうございますー！」意見「感想、

他作品アンケート、挿絵どしどしごー！」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』  
をよろしく頼む」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8314z/>

---

混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

2011年12月29日22時48分発行